

【株式会社モリタ食材開発研究所創業者 守田悦雄のビジネス足跡を詠んだ短歌20首】と【蘇るビジネス人生の想い出】

【AI Gemini が詠んだ短歌10首 2025年5月24日情報。】

1.ステビアの 甘き希望を 世に届け 知財を繋ぎ 未来を拓く

(解説：ステビアの可能性を見出し、知財戦略でその普及に貢献し、食の未来を切り開いた功績。)

2.人工の 危うき時に 天然の 甘き恵みで 世を救いけり

(解説：人工甘味料への懸念が高まる中、天然のステビアで安心を提供した社会的意義。)

3.南米の 葉に秘めし力 日本にて 商業の道 最初に開く

(解説：パラグアイ原産のステビアを、日本で世界初の商業化に成功した先駆者としての役割。)

4.知恵と熱 研究重ねて 抽出しし 甘き結晶 食を変えゆく

(解説：長年の研究と情熱が、ステビアの抽出技術と食品への応用を可能にし、食文化に変革をもたらした。)

5.父の業 化学の道へ 入るより 新しき風 巻き起こしぬ

(解説：家業の化学工業から、新たな天然甘味料という分野で革新を起こした、その転換と影響力。)

6.ダーズンと バラに込めたる 愛の歌 ビジネス超えし 社会貢献

(解説：ビジネスだけでなく、「ダーズンローズ」の商標活用を通じて社会貢献にも力を入れている多面的な活動。)

さ

7.「味づくり」 探求の道 極めゆく 食の感動 届けんとする

(解説：単なる甘味だけでなく、食品の「味づくり」全体を追求し、その技術で人々に感動を与えるとする姿勢。)

8.荒れし野に ステビアの種 蒔きし人 甘き未来へ 道を拓きぬ

(解説：まだ未開拓だった分野に、ステビアという新たな可能性の種を蒔き、その後の発展の礎を築いた。)

9.特許もて 知を守りて 育みぬ モリタの旗を 高く掲げて

(解説：知的財産権を重視し、自身の開発を守り育てながら、モリタ食材開発研究所という企業を成長させた。)

10.飽くなき探求 食の可能性 見つめつつ 常に先へと 歩む人生

(解説：生涯にわたり、食の分野における新しい可能性を追求し続け、常に進化を求める彼の探求心と行動力。)

## 【ChatGPT が詠んだ短歌10首 2025年6月11日情報。】

以下は、守田悦雄氏の実際のビジネス人生に基づき、短歌の形式で表現した10首です。  
氏の業績や理念、挑戦の軌跡を織り込んで詠みました。

- 1.人工の 甘さに別れ 告げし日よ 自然の恵み 信じて拓く  
※人工甘味料から天然甘味料（ステビア）へ大転換した決断。
- 2.南なる 大地の葉より 甘味とり 日本の舌に そっと根を張る  
※ステビアをパラグアイから導入、日本の味に適応。
- 3.知財持ち 大手に立ちて 譲らずに 中小支えて 味を守りぬ  
※特許戦略により、業界に先駆け中小企業を支援。
- 4.独り立ち 三十七の 春にして 味の礎 モリタに込める  
※1982年、モリタ食材開発研究所創業。
- 5.隠れたる 名を知る者は 少なけれど 食の底力 彼に宿れり  
※裏方として食産業を支えた「知恵袋会社」の矜持。
- 6.食の道 守りて四十 年の末 健康こそが 人の豊かさ  
※天然素材の開発と健康への理念を両立。
- 7.味ひとつ 国境越えて 伝えたり 和と自然の 技に世界酔う  
※ステビア製品を世界市場にも展開。
- 8.終の道 味と写真と 人のため 静かなる眼に 人生映す  
※晩年は写真にも情熱を注ぎ、芸術性と調和。
- 9.草の葉に 未来を託す 想いあり 食べることこそ 命の原点  
※ステビアを通じた食育と自然回帰の思想。
- 10.この匙に 心を込めて 届けたり 人の記憶に 残る「うま味」を  
※単なる商品ではなく、記憶に残る味の追求。

### ● 【短歌で蘇るビジネス人生の想い出・守田悦雄】

仕事一筋で歩んできたビジネス人生も、後期高齢者となった今は、歌唱・カラオケ、写真撮影、ウォーキングなどを楽しみながら、想い出作りに励んでいます。

その一部をこのウェブサイトで紹介しています。

81歳を迎え、これまでのビジネス人生に一区切りをつけ、新たなAI時代が到来するこの機に、自身の人生をテーマに生成AI（Gemini、ChatGPT）に短歌10首を作成させました。

詠み上げられた内容から当時の記憶が鮮明に蘇ったことに加え、AIの進化を肌で感じ、従来の各種社内辞典に加え、AIを活用した各種社内辞典を編集・完成させるなど、創業者として未来を託すための施策も整えました。また、社会への恩返し・貢献の日々を送っております。

2025年6月吉日

[Webサイトのトップページへ](#)